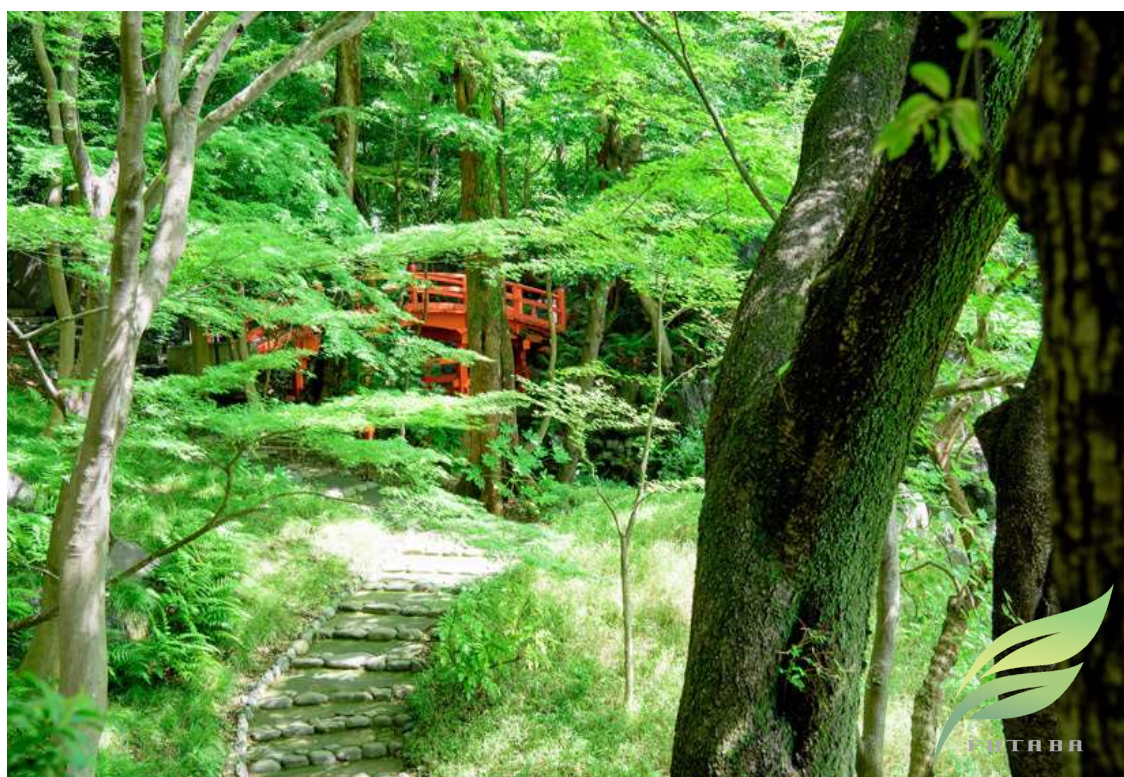


株式会社双葉苑 環境経営レポート

2023年度

(対象期間 2023年7月～2024年6月)



目 次

1. 組織の概要,対象範囲	1頁
2. 実施体制	2頁
3. 環境経営方針	3頁
4. 環境経営目標	4頁
5. 環境経営計画及び実施した取組内容	5頁
6. 環境経営目標の実績	6頁
7. 環境経営計画の取組結果とその評価及び次年度の計画	7頁
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	8頁
9. 代表者による全体評価と見直し・指示	9頁

2024年7月17日発行

1. 組織の概要、対象範囲

1) 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社双葉苑
代表取締役社長 島本 和人

(2) 所在地

本社(登記簿上) 東京都小金井市中町3丁目22番22号
小金井営業所 東京都小金井市中町2丁目16番17号
鈴栄ビル 1階 2022年に認証・登録

(3) 環境管理の責任者及び担当者連絡先

責任者 工事部主任 阿久津 岳 TEL: 042-316-3907
担当者 経理部 島本 順子 TEL: 042-316-3907

(4) 事業活動内容

- ・一般建設業 造園施工、維持管理
許可番号: 東京都知事 許可(般-4) 第139782号
/有効年月日: 令和10年3月10日
- ・産業廃棄物収集運搬業(自社造園作業で発生した廃棄物のみ運搬)
許可番号: 東京都知事 第13-00-183081号
/有効年月日: 令和7年6月2日
許可車両: 塵芥車2台
許可番号: 埼玉県知事 第01-10-0183081号
/有効年月日: 令和8年7月14日
許可車両: 塵芥車2台

産業廃棄物の種類

廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類
(石綿含む有産業廃棄物を含む。)(水銀使用製品産業廃棄物を含む。)

(5) 事業の規模

	単位	2023年	2022年	2021年	2020年
売上高	億円	3	2.6	2.6	1.7
主要工事件数	件	74	52	45	39
従業員	人	30	20	22	18
延べ床面積	m ²	259	259	259	145

(6) 事業年度 7月～6月

2) 対象範囲(認証・登録範囲)

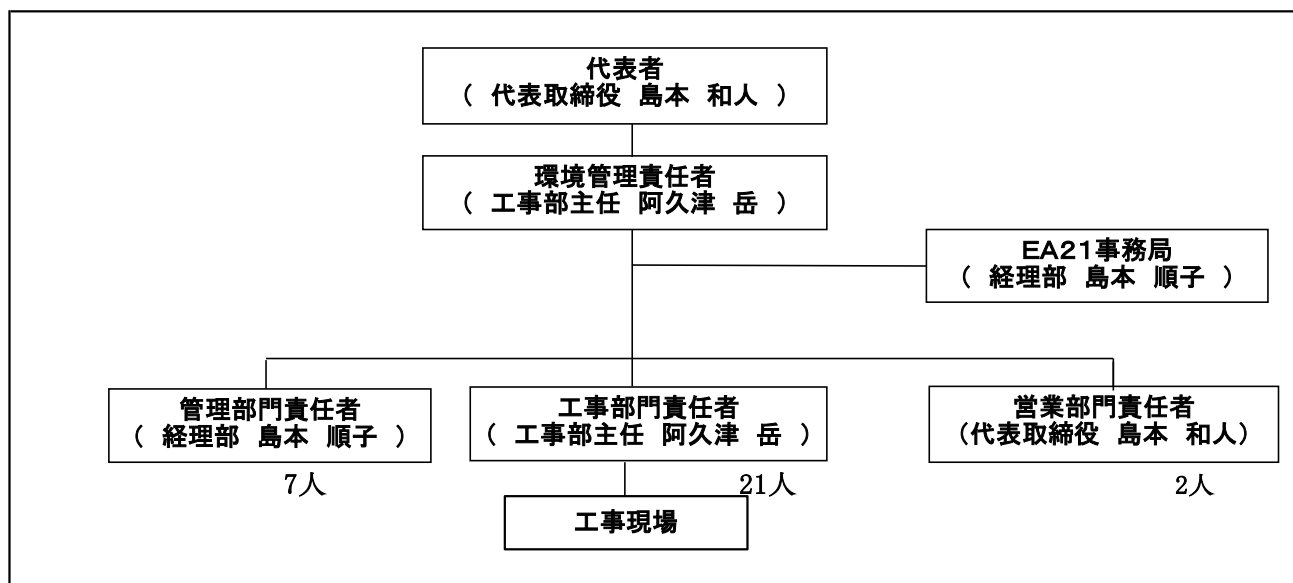
(1) 対象組織 小金井営業所

(2) 活動 造園施工、維持管理

(3) レポートの対象期間(2023年7月～2024年6月)

2. 実施体制

環境経営実施体制表



対象者	役割、責任および権限
代表者	1. 取り組みの対象組織・活動の明確化 (要求事項 1) 2. 経営における課題とチャンス の明確化 (要求事項 2) 3. 環境経営方針の作成、全従業員に周知 (要求事項 3) 4. 実施体制の構築 (要求事項 7) 5. 代表者による全体の評価と見直し (要求事項 1 4) 6. 環境経営レポートの承認 7. その他
環境管理責任者 (E A 2 1 事務局)	1. 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価 (要求事項 4 : 事務局担当) 2. 環境関連法規の取りまとめ (要求事項 5 : 事務局担当) 3. 環境経営目標及び環境経営計画の策定 (要求事項 6) 4. 環境コミュニケーションの実施 (要求事項 9) 5. 取組状況の確認及び問題の是正及び予防 (要求事項 1 3) 6. 環境関連文書類の作成・管理 (要求事項 1 2 : 事務局担当) 7. 環境経営レポートの作成・公表 (事務局担当)、確認 (環責) 8. その他
部門責任者	1. 教育・訓練の実施 (要求事項 8) 2. 実施及び運用 (要求事項 1 0) 3. 環境上の緊急事態への準備及び対応 (要求事項 1 1) 4. その他
全従業員	1. 環境方針の理解及び環境問題の現状と環境への取組の重要性の自覚 2. 自らの役割及び実施しなければならない取組・責任の認識

3.環境経営方針

環境経営方針

[企業理念]

『all for ONE, one for ALL』

～人と人との繋がりを大切にご縁があり関わられたすべての人の幸せを願う～
株式会社 双葉苑は、従業員の働きやすい環境作りを大切に、
造園・施工・管理のエキスパートとして、日々の業務に取り組んでいます。

[環境経営の指針]

当社は、企業理念に基づき全ての従業員一人一人の環境に関する意識を高め、
全社一丸となって、造園工事業として環境負荷の低減、環境に配慮した施工業務・施工管理に
積極的に取り組んで参ります。

環境経営への取組みに当たっては、環境関連法規等を遵守し、以下の基本的方向に基づき
全従業員参画により環境活動を実践すると共に環境経営の継続的改善を図ることを誓約します。

[環境経営への取組の基本的方向]

1. 二酸化炭素排出量の削減
電力使用及び運搬車両・作業機械等で使用する燃料の消費に伴う
二酸化炭素排出量の削減に努めます。
2. 廃棄物排出量の削減
営業所で発生する一般廃棄物の削減を図るとともに、現場で発生した
剪定枝葉等は、東京都建設リサイクルガイドラインに基づき、適切な施設に
搬入し、再資源化に努めます。
3. 水使用量の削減
営業所内の水使用量の削減に努めます。
4. 環境に配慮した使用機械などの推進
電動機械化を推進します。
5. 地域社会貢献活動の実施
地域社会との繋がりを大切に、環境活動を行っていきます。

この環境経営方針は、全従業員に周知すると共に、一般にも公開します。

制定:2021年11月1日

株式会社 双葉苑
代表取締役 島本和人

4. 環境経営目標

【営業所】

No	環境経営方針項目など	環境経営目標項目	基準値	CO2 換算係数	年度環境経営目標		
			2022年度		2023 年度	2024 年度	2025 年度
1	二酸化炭素排出量の削減	1) 電力使用量の削減	電力使用量		基準値に対し 0.5 %削減	基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減
			7,943 kWh/年	0.442 (東電)	7,903 kWh/年以下	7,864 kWh/年以下	7,784 kWh/年以下
		2) 化石燃料使用量の削減	ガソリン		基準値に対し 0 %削減	基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減
			8,348 L/年	2.32	8,348 L/年以下	8,265 L/年以下	8,181 L/年以下
			軽油		基準値に対し 0 %削減	基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減
			12,405 L/年	2.58	12,405 L/年以下	12,281 L/年以下	12,157 L/年以下
		CO ₂ 総量計 (kg-CO ₂)	51,372 kg-CO ₂ /年		51,372 kg-CO ₂ /年以下	50,859 kg-CO ₂ /年以下	50,345 kg-CO ₂ /年以下
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量		基準値に対し 0 %削減	基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減
			904.1 kg/年		904.1 kg/年以下	895.1 kg/年以下	886.0 kg/年以下
3	水使用量の削減		水道使用量		基準値に対し 0 %削減	基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減
			23 m ³ /年		23.0 m ³ /年以下	22.8 m ³ /年以下	22.5 m ³ /年以下

【現場】

4	二酸化炭素の排出量の維持管理	化石燃料使用量の維持管理			基準値に対し 0 %削減	基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減
			2026 L/年		2,026.0 L/年以下	2,005.7 L/年以下	1,965.6 L/年以下
5	廃棄物排出量の削減	剪定枝葉等の再資源化維持	リサイクル率(現場)				
			100 %		100 %	100 %	100 %
6	環境に配慮した使用機械の推進	電動機械化推進(電動チェーンソー・ブローワー)	使用機械率				
			12.5 %		12.5 %	12.5 %以上	12.5 %以上

【共通活動】

7	地域社会貢献活動の実施	小金井商工会イベント参加					
			参加		7～8月イベント参加	7～8月イベント参加	7～8月イベント参加

※二酸化炭素排出係数は2019年東京電力エナジーパートナー実績の調整後排出係数0.442kg-CO₂/kWhを適用した。

※年度表記は7月～6月の会計年度と同一期間を適用した。

5. 環境経営計画及び実施した取組内容

2023年度7月～2024年6月 環境経営計画及び実施した取組内容

【営業所】

No	環境経営方針項目など	環境経営目標項目	目標達成手段	責任部門 責任者	スケジュール	実施した 取組内容
					2023年7月～2024年6月	
1	二酸化炭素排出量の削減	1) 電力使用量の削減	① 退社時のコピー機主電源オフ	檜山舞	(左記達成手段全て)	○
			② 残業時間短縮			○
			③ 不要な照明の消灯			○
			④ 空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃)			○
			⑤ 非使用時は、パソコン電源をオフ			○
		2) 化石燃料使用量の削減	ガソリン ① 停車時のアイドリングストップの励行	阿久津岳	(左記達成手段全て)	○
			② エコドライブの徹底(急加速・急停車の防止)			○
			③ 定期的車両点検整備			○
			④ 公共交通機関の利用促進			○
			⑤ 冷暖房の控え目使用			○
		軽油 ① 停車時のアイドリングストップの励行	② エコドライブの徹底(急加速・急停車の防止)	阿久津岳	(左記達成手段全て)	○
			③ 定期的車両点検整備			○
			④ 公共交通機関の利用促進			○
			⑤ 冷暖房の控え目使用			○
		CO ₂ 総量計 (kg-CO ₂)		阿久津岳		○
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	① ゴミ収集時の計量・記録	檜山舞	(左記達成手段全て)	○
			② 分別管理の周知徹底			○
			③ ミスコピーの削減			○
			④ ミスコピーの裏紙使用			○
			⑤ シュレッター排紙のリサイクル化			○
			⑥ 電子メディアによるペーパーレス化			○
						○
3	水使用量の削減		① 節水シールの貼り付けとポスター掲示	檜山舞	(左記達成手段全て)	○
			② 節水の意識を高め、徹底(蛇口をこまめに閉める)			○
			③ 節水弁取り付け			○

【現場】

4	二酸化炭素の排出量の維持管理	化石燃料使用量の維持管理	① 作業効率化により使用量削減に努める	阿久津岳	(左記達成手段全て)	○
			② 電力ブロワーの導入			○
5	一般廃棄物サイクル率維持管理	剪定枝葉等の再資源化維持	① リサイクル業者の選定	阿久津岳	(左記達成手段全て)	○
			② 分別保管場所管理			○
			③ リサイクル工場との工程管理			○
6	提供するサービスの改善	環境配慮機械への切替え (電動チェーンソー)	① 下請けへの啓蒙活動	阿久津岳	(左記達成手段全て)	○
			② 電動チェーンソーへの切替え			○
			③ 電動ブロワーへの切替え			○

【共通活動】

7	地域社会貢献活動の実施	小金井商工会イベント参加	① 企画立案・準備 ② イベント参加 ③ イベント結果まとめ	島本順子	(左記達成手段:未実施期間)	○
---	-------------	--------------	--------------------------------------	------	----------------	---

6. 環境経営目標の実績

【営業所】

No	環境経営方針項目など	環境経営目標項目	基準値	CO2 換算係数	運用期間(2023年度7月～2024年6月)		
			2022年度		目 標	実 績	評 価
1	二酸化炭素排出量の削減	1)電力使用量の削減	電力使用量		基準値に対し 0.5 %削減		
			7,943 kWh／年	0.442 (東電)	7,903 kWh／年	8,171 kWh／年	× 3.4%
		2)化石燃料使用量の削減	ガソリン		基準値に対し 0 %削減		
			8,348 L／年	2.32	8,348 L／年	9,299 L／年	× 11.4%
			軽油		基準値に対し 0 %削減		
			12,405 L／年	2.58	12,405 L／年	13,433 L／年	× 8.3%
		CO ₂ 総量計 (kg-CO ₂)	51,372 kg-CO ₂ ／年		51,372 kg-CO ₂ ／年	59,842 kg-CO ₂ ／年	× 16.5%
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量		基準値に対し 0 %削減		
			904.1 kg／年		904.1 kg／年	624.0 kg／年	○ -31.0%
3	水使用量の削減		水道使用量		基準値に対し 0 %削減		
			23 m ³ ／年		23.0 m ³ ／年	12.0 m ³ ／年	○

【現場】

4	二酸化炭素排出量の維持管理	化石燃料使用量の維持管理	2026 L／年		基準値に対し 0 %削減		
					2,026 L／年以下	1406 L／年以下	○
5	廃棄物排出量の削減	剪定枝葉等の再資源化維持	リサイクル率(現場)				
			100 %		100 %	100 %	○
6	提供するサービスの改善	電動機械化推進(電動チェーンソー、プロワァー)	使用機械率				
			12.5 %		12.5 %以上	12.5 %	○

【共通活動】

7	地域社会貢献活動の実施	小金井商工会イベント参加			7月～8月	7月～8月	○
			参加				

※二酸化炭素排出係数は2019年東京電力エナジーパートナー実績の調整後排出係数0.442kg-CO₂/kWhを適用した。

※No.1.2)2の環境経営目標項目は、実績が目標値以下で達成「○」、目標未達成但し基準年度より改善「△」、目標未達成「×」と評価する。

No.7は実施で「○」、未実施で「×」と評価する。

○ 2023年度 二酸化炭素排出量総量: 63,104.32 kg-CO₂

7. 環境経営計画の取組結果とその評価及び次年度の計画

2023年度 環境経営計画の取組結果とその評価及び次年度の計画

【営業所】

No	環境経営方針項目など	環境経営目標項目	目標達成手段	取組結果とその評価	次年度の計画
1	二酸化炭素排出量の削減	1) 電力使用量の削減	①退社時のコピー機主電源オフ ②退社時電気ポット電源オフ ③残業時間短縮 ④不要な照明の消灯 ⑤空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃) ⑥非使用時は、パソコン電源をオフ	造園用の機械整備を営業所で行うことが増えたことが原因、対策が必須。	基準値の見直しを検討中
		2) 化石燃料使用量の削減	ガソリン ①停車時のアイドリングストップの励行 ②エコドライブの徹底(急加速・急停車の防止) ③定期的車両点検整備 ④公共交通機関の利用促進 ⑤冷房の控え目使用	作業員の増加により車両を増やしたことが増加の原因と思われる。今後も車両を増やす可能性がある。	基準値の見直しを検討中
		軽油	①停車時のアイドリングストップの励行 ②エコドライブの徹底(急加速・急停車の防止) ③定期的車両点検整備 ④公共交通機関の利用促進 ⑤冷房の控え目使用	作業員の増加により車両を増やしたことが増加の原因と思われる。今後も車両を増やす可能性がある。	基準値の見直しを検討中
		CO ₂ 総量計(kg-CO ₂)		全体で16.4%で増加方向である。	基準値の見直しを検討中
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	①ゴミ収集時の計量・記録 ②分別管理の周知徹底 ③ミスコピーの削減 ④ミスコピーの裏紙使用 ⑤シュレッター排紙のリサイクル化 ⑥電子メディアによるペーパーレス化	31.0%で削減である	次年度も引き続き同じ削減目標で取組む。
3	水使用量の削減		①節水シールの貼り付けとポスター掲示 ②節水の意識を高め、徹底(蛇口をこまめに閉める) ③節水弁取り付け	営業所に移ってからの水使用量であるが、トイレが共用費に入っているため非常に少ない。	水使用量の年間データを取り、量が少ない場合は定性目標にするか検討する。

【現場】

4	二酸化炭素の排出量の維持	化石燃料使用量の維持管理	①作業効率化により使用量削減に努める ②チェーンソーを植物性オイル対応機にする？	削減方向の方向である。	案件内容で使用機械に偏りがあるため、引き続き推移を見たい。
5	廃棄物排出量の削減	剪定枝葉等の再資源化維持	①リサイクル業者の選定 ②分別保管場所管理 ③リサイクル工場との工程管理	以前から実施の再資源化を確実に実施している。	再資源化100%を継続する。
6	製品の環境性能の向上及びサービスの改善	1) 環境配慮機械への切替え(電動チェーンソー)	①下請けへの啓蒙活動 ②電動チェーンソーへの切替え	昨年度と同じ案件でのみ使用しているため変化はない。	電動機械で対応可能な現場を増やす

【共通活動】

7	地域社会貢献活動の実施	小金井商工会イベント参加	①企画立案・準備 ②イベント参加 ③イベント結果まとめ	7～8月イベント参加	次年度も7～8月イベントに参加する。
---	-------------	--------------	-----------------------------------	------------	--------------------

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等取りまとめ表

区分	環境関連法規等名称	遵守状況 確認評価
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) (一般廃棄物の処理)	遵守
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) (産業廃棄物の適正処理)	遵守
	東京都廃棄物条例	遵守
	小金井市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	遵守
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	遵守
	使用済み小型電子機器等の再資源化に関する法律 (小型家電リサイクル法)	遵守
	使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	遵守
	東京都建設リサイクルガイドライン	遵守
大気汚染	自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法 (自動車NO _x ・PM法)	遵守
	東京都環境確保条例	遵守

当社に關係する環境関連法規等は上記の通りですが、遵守状況を2024年6月に確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお、外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

9. 経営者による全体の評価と見直し・指示

代表者による全体の評価と見直し・指示 結果報告書

見直し実施日	2024年7月8日	(☒ 定期見直し ☐ 臨時見直し)																																												
見直し対象期間	2023年7月1日 ~ 2024年6月30日																																													
出席者	代表者、環境管理責任者、部門責任者																																													
前回の見直し記録より指示への取組結果	環境経営目標及び環境経営計画を維持																																													
見直しに必要な情報	①環境関連法規の遵守状況(環境関連法規等取りまとめ表兼遵守確認評価表による) ②環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果(環境経営計画兼実績書による) ③適用範囲、実施体制 ④問題点の是正処置及び予防処置の結果(是正／予防処置報告書による) ⑤外部からの環境に関する苦情等の受付結果(外部コミュニケーション記録による) ⑥その他(法規制の動向や取引先からの「グリーン調達」の情報等)																																													
代表者による評価	【環境経営システムが有効に機能しているか】(①、③、④、⑤等を踏まえて評価) 試行錯誤しながら、経営における課題とチャンスとを踏まえて代表者の考え方を入れた環境経営方針をつくり、実施体制、環境経営目標、環境経営計画とステップを踏んで進め、皆で目標達成に向けて活動した。また、その間、環境関連法規等の遵守状況の確認・評価や、是正の必要な問題や外部からの苦情もなく、環境経営システムの構築の歩みができた。 【環境経営への取組が適切に実施されているか】(②等を踏まえて評価) <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標項目</th><th>目標達成状況</th><th>経営計画実施状況</th><th>目標・経営計画実施状況の評価(達成の場合:目標設定方法や取組方法の問題点、次年度の方向性 未達の場合:原因の明確化、次年度の目標や対応策)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【営業所】</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>二酸化炭素排出量の削減</td><td>×</td><td>○</td><td>増加傾向となってしまった。昨今の異常気象の影響もあるが、今年度はもう少し積極的に電力使用量削減に取り組む。</td></tr> <tr> <td>廃棄物排出量の削減</td><td>○</td><td>○</td><td>引き続き、緩やかでも減少傾向になるよう取り組む。</td></tr> <tr> <td>水使用量の削減</td><td>○</td><td>○</td><td>使用量少ないので今後、定性目標にするか検討中。</td></tr> <tr> <td>【現場】</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>二酸化炭素排出量の維持</td><td>○</td><td>○</td><td>機械整備をこまめに行い、作業効率が上がったが営業所内で整備することが増え増加傾向になってしまった。</td></tr> <tr> <td>廃棄物排出量の削減 (剪定枝葉等の再資源化維持)</td><td>○</td><td>○</td><td>再資源化100%を継続している。今後も継続する。</td></tr> <tr> <td>製品の環境性能の向上及びサービス</td><td>○</td><td>○</td><td>電動機械をさらに積極的に使用できる現場環境づくり。</td></tr> <tr> <td>【共通活動】</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>地域社会貢献活動の実施</td><td>○</td><td>○</td><td>次年度も7～8月にイベントに参加する。</td></tr> </tbody> </table>		目標項目	目標達成状況	経営計画実施状況	目標・経営計画実施状況の評価(達成の場合:目標設定方法や取組方法の問題点、次年度の方向性 未達の場合:原因の明確化、次年度の目標や対応策)	【営業所】				二酸化炭素排出量の削減	×	○	増加傾向となってしまった。昨今の異常気象の影響もあるが、今年度はもう少し積極的に電力使用量削減に取り組む。	廃棄物排出量の削減	○	○	引き続き、緩やかでも減少傾向になるよう取り組む。	水使用量の削減	○	○	使用量少ないので今後、定性目標にするか検討中。	【現場】				二酸化炭素排出量の維持	○	○	機械整備をこまめに行い、作業効率が上がったが営業所内で整備することが増え増加傾向になってしまった。	廃棄物排出量の削減 (剪定枝葉等の再資源化維持)	○	○	再資源化100%を継続している。今後も継続する。	製品の環境性能の向上及びサービス	○	○	電動機械をさらに積極的に使用できる現場環境づくり。	【共通活動】				地域社会貢献活動の実施	○	○	次年度も7～8月にイベントに参加する。
目標項目	目標達成状況	経営計画実施状況	目標・経営計画実施状況の評価(達成の場合:目標設定方法や取組方法の問題点、次年度の方向性 未達の場合:原因の明確化、次年度の目標や対応策)																																											
【営業所】																																														
二酸化炭素排出量の削減	×	○	増加傾向となってしまった。昨今の異常気象の影響もあるが、今年度はもう少し積極的に電力使用量削減に取り組む。																																											
廃棄物排出量の削減	○	○	引き続き、緩やかでも減少傾向になるよう取り組む。																																											
水使用量の削減	○	○	使用量少ないので今後、定性目標にするか検討中。																																											
【現場】																																														
二酸化炭素排出量の維持	○	○	機械整備をこまめに行い、作業効率が上がったが営業所内で整備することが増え増加傾向になってしまった。																																											
廃棄物排出量の削減 (剪定枝葉等の再資源化維持)	○	○	再資源化100%を継続している。今後も継続する。																																											
製品の環境性能の向上及びサービス	○	○	電動機械をさらに積極的に使用できる現場環境づくり。																																											
【共通活動】																																														
地域社会貢献活動の実施	○	○	次年度も7～8月にイベントに参加する。																																											
代表者による見直し	【環境経営方針】 変更の必要性 : ☐有 ☒無 現在の環境経営方針を維持する。 【環境経営目標及び環境経営計画】 変更の必要性 : ☐有 ☒無 現在の環境経営目標及び環境経営計画を維持する。 【実施体制】 変更の必要性 : ☐有 ☒無 現在の体制を維持する。 【環境経営システム等】 変更の必要性 : ☐有 ☒無 環境経営システムの継続的改善を図りたい。 【総括】 今後も従業員の雇用が増えれば車両や機械の台数も比例するためエネルギー使用量も増えるが緩やかな増加傾向になるよう全従業員の取り組み意識の向上と目標達成を継続していきたい。																																													